グループワークの導入の仕方

　ワーク２では、収入の異なる市民から、どのように税金の負担額を分配するかを考えさせる。

◇　予測解答１（均等割）

　　全員というわけにはいかないので、ある程度均等割りとする方法（計算根拠は様々）。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 収　入 | メ　モ　欄 | 税　金 | 残　り |
| Ａ | 2,500万円 | 600　　700　　 | 万円 | 万円 |
| Ｂ | 1,500万円 | 500　　600　　 | 万円 | 万円 |
| Ｃ | 1,000万円 | 400　　500　　 | 万円 | 万円 |
| Ｄ | 500万円 | 100　　　0　　 | 万円 | 万円 |
| Ｅ | 300万円 | 100　　　0　　 | 万円 | 万円 |
| Ｆ | 200万円 | 100　　　0　　etc | 万円 | 万円 |
| 合計 | 6,000万円 |  | 1,800万円 |  |

（良い点）

・　計算方法や負担額によっては、所得税の累進課税制度と同様の結果が期待できる。

（考えさせる点）

・　負担額が「０」だと、高収入で税金をたくさん負担する人（ＡやＢ）から不満がでないか。

・　例えば、Ｂは独身で働き盛りだけど、Ａは10人家族でたくさんの生活費が必要だとすると、考えた結果は変わる？変わらない？

◇　予測解答２（歩合）

　　合計収入額から各人の割合を算出し、必要経費1,800万円を歩合により計算する方法。

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 収　入 | メ　モ　欄 | 税　金 | 残　り |
| Ａ | 2,500万円 | 41.6％（×1,800万円＝748.8万円） | 750万円 | 1,750万円 |
| Ｂ | 1,500万円 | 25.0％（×1,800万円＝450万円） | 450万円 | 1,050万円 |
| Ｃ | 1,000万円 | 16.6％（×1,800万円＝298.8万円） | 300万円 | 700万円 |
| Ｄ | 500万円 | 8.3％（×1,800万円＝149.4万円） | 150万円 | 350万円 |
| Ｅ | 300万円 | 5％（×1,800万円＝90万円） | 90万円 | 210万円 |
| Ｆ | 200万円 | 3.3％（×1,800万円＝60万円） | 60万円 | 140万円 |
| 合計 | 6,000万円 |  | 1,800万円 |  |

（良い点）

・　必要経費に対して収入の按分割りで計算することで公平感がある。

（考えさせる点）

・　ＥとＦは税金としての負担は少ないが、収入がもともと少ないため、残りの金額も少なくなるため、生活に困るかも・・・何かもっといい方法はないか？？